

Al+Byobu:

アート・デザインの新たな挑戦

Encounter of Aluminium and Byobu

BYOBU

Al+Byobu:

アート・デザインの新たな挑戦

2020 1.6(月) - 2.1(土)

京都工芸繊維大学美術工芸資料館

開館時間：10:00-17:00(入館は16:30まで)

休館日：日曜・祝日、1月18日(土)

入館料：無料

主催：京都工芸繊維大学美術工芸資料館

協力：東洋アルミニウム株式会社、京都・大学ミュージアム連携

助成：文化庁2019年度文化芸術振興費補助金

「大学における文化芸術推進事業」

「産学官連携を基盤とした文産官人材育成プラットフォームの形成—アート・デザインを活用した価値創造人材育成プログラムの展開—」

Al+Byobu:

アート・デザインの新たな挑戦

本プロジェクトは、アート・デザインを専攻する学生・大学院生が、所属する大学の枠を超えて、一般企業との連携によりアート・デザイン作品を制作することを通して、みずからの制作と社会とのかかわりを体験し、それにより社会性のあるアーティスト、デザイナーを養成することを目的としています。2019年度は東洋アルミニウム株式会社の協力を仰ぎ、アルミ素材を多様に用いて、3人一組のグループで二曲一双の屏風を制作しました。

実際に、東洋アルミニウム株式会社の製造所に行き、アルミ素材の特性についての講義を聴き、アルミ箔・顔料を製造している様子を見学したうえで、自分たちの制作の方向について議論を重ね、デザインや化学の専門家からアドバイスを受けながら、実際の制作手順を考えています。

既存の素材をつかったアート・デザイン制作と異なり、新たな素材による表現を、社会とのかかわりのなかで模索し、さらに、教員と学生という枠を超えて、異分野の専門家と接しつつ作業することにより、学生は、みずからの「つくり手」としての立場を自覚していきます。

アルミニウムと屏風の新たなコラボレーションをお楽しみ下さい。



受講生募集チラシ



併設展示「屏風の多様な姿」



廣岡伊兵衛《友禅染扇地紙張交屏風》c.1898 AN.2446



鶴巻鶴一《唐獅子牡丹障縹屏風》1932 AN.2693

屏風は、平安時代から用いられている調度品であり、同時にさまざまな絵画が描かれる場でもありました。季節の移ろいを描いたやまと絵や中国への憧れを示す水墨画、さらには金地に著色の豪華絢爛な花鳥画など、屏風は人びとの生活をさまざまに彩ってきました。たんに絵を描くだけでなく、絵や染織品を貼り付けて鑑賞することもありました。

本展では、美術工芸資料館が所蔵する近代のさまざまな屏風の姿をお楽しみいただければ幸いです。

館内同時開催

ジャパニーズ・モダンデザインの誕生
—1940年代から1970年代—
会期: 2020年1月14日(火)～2月22日(土)

お問い合わせ

京都工芸繊維大学美術工芸資料館
〒606-8585 京都市左京区松ヶ崎橋上町
TEL 075-724-7924 <http://www.museum.kit.ac.jp/>
Museum and Archives, Kyoto Institute of Technology
Hashigami-cho Matsugasaki Sakyō-ku Kyoto-shi Kyoto 6068585, Japan

交通

○市営地下鉄烏丸線「松ヶ崎駅」下車1番出口から徒歩約8分
○京都バス「高野泉町」下車、西へ徒歩約10分
○叡山電車「修学院駅」下車、西へ徒歩約15分
By Subways: Take Karasuma Line Subway to "Matsugasaki" Station, exit from Exit 1 and walk east for 8 minutes.
By Kyoto Bus: Get off at "Takano-Izumicho" stop. Cross the Takano river and walk west for 10 minutes.
By Eizan Railway: Get off at "Shugakuin" station and walk west for 15 minutes.
Museum and Archives is located in front of the main entrance of KIT west campus.

